令和４年度第１回白石市総合教育会議　　会議録

１　招集日時　　令和５年２月７日（火）午前１０時

２　招集場所　　防災センター２階　会議室

３　出席委員　　白石市長　山田裕一
教育長　半沢芳典、佐藤敏義　教育委員、岡﨑美弥子　教育委員
小室秀一　教育委員、鈴木順子　教育委員

４　事務局出席者
教育委員会事務局
学校管理課　課長　佐藤哲生、教育専門監　星健太郎、課長補佐　山田せつ子
主幹　後藤順子
生涯学習課　課長　日下忠績
総務部　総務部長　山家英男

５　開会時刻　　午前１０時

６　テーマ　　（１）不登校特例校について
（２）白石市学校教育・保育審議会について

７　閉会時刻　　午前１１時３７分

（午前１０時００分開会）

佐藤課長　　定刻になりましたので、ただいまから令和４年度第１回白石市総合教育会議を始めさせていただきます。
当会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１条の４に規定されており、地方公共団体の長と教育委員会との協議並びに調整の場という位置づけになっております。また、この会議は物事を決定する場ではなく、意見調整の場でございます。
なお、本日の、会議の時間は概ね１時間半を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。
それでは、開会に当たりまして、山田市長よりご挨拶を申し上げます。

山田市長　　皆様、おはようございます。本日の総合教育会議にあたりまして、主催者としまして一言ご挨拶を申し上げます。教育委員、半沢教育長、皆様におかれましては、広い本市の教育行政につきまして、様々な角度からご意見等をいただくとともに、併せまして力強くご支援いただいておりますこと市民を代表して深く感謝申し上げます。
さて、本年４月に開校を控えております不登校特例校白石きぼう学園についてと、現在、教育長の諮問に応じて審議を続けている指導指針、学校教育保育審議会につ

いて意見交換させていだきたいと考えております。
白石きぼう学園につきましては、不登校に悩み子どもたちを社会みんなで支えていく、そのような考えの方々に共感をいただいているところで、また白石市学校教育審議会で審議いただいている本市の幼児教育保育のあり方と小中学校教育のあり方はこれからの本市教育を考える上で大変重要な事案であると認識しております。
本日議題の二項目につきまして、皆様からの忌憚のないご意見をちょうだいしたいと存じます。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

佐藤課長　ありがとうごとうございました。
それでは会議に入ります。議長選出につきましては、「白石市総合教育会議運営要綱」第３条の規定により市長が議長となり、会議の進行をすることになっておりますので、ここからの進行は山田市長にお願いいたします。

山田市長　それでは、議長を務めさせていただいます。よろしくお願いいたします。
早速はじめに、教育委員会から不登校特例校についての説明をお願いします。

半沢教育長　まず初めに私の方から、現在、不登校特例校、白石きぼう学園の進捗状況等についてご説明をさせていただきます。
準備手続きの状況でございますが、いくつかハードルがございまして、まず国の方ついては、1 月 12 日付けで、正式に認可をするという通知がございました。
それから県に対しての設置の届け出につきましては、1 月 25 日付けで県教育委員会に設置の登録を行っております。
しかしながら、現段階ではそろわない書類等もございますので、それについては、義務教育課と調整し、順次お届けするということになっております。
市立学校の設置に関する条例の改正案については、第 459 回市議会定例会におきまして、可決をしていただいております。併せて附則にて学校施設開放に関する条例についても、一部改正は成立しております。
併せて、白石みらい教育基金条例を上程し、第 459 回定例会で可決いただきまして、今、支援が広がっているという状況でございます。
事務的な手続きにつきましてはまだ一部、完了してない部分がありますが、4 月開校に向け順調に進んでいると認識しております。
それから、就学予定者でございますが、小学生については計 3 名、4 年生のお子さんが 1 名、5 年生のお子さんが 2 名となっております。
中学生につきましては、1 年生が 5 名、2 年生が 3 名、3 年生が 4 名の計 12 名でございまして、小中合計で 15 名となっております。
また、この数字には反映されておりませんが、市外県外から引っ越ししてでも入りたいというご連絡もいただいており、子育て支援住宅のパンフレット等をお送りしたりしているところです。
従いまして、現在のところ 15 名ですが、今後増えてくるのではないかと考えております。
それから開校後の行事で決まっているところをお知らせいたします。
まず開校式ですが、これは 4 月 6 日午前 10 時開式ということで調整をしておりま

す。最初午後を予定しておりましたが、来賓の関係から午前で進めております。
開校式は、関係者、報道機関等を対象として開催することとし、児童生徒保護者は春休み中ということもあって、参加する予定はありません。
来賓として市長はもちろんですけれども、その他地元の皆さん、議会の議員さん等にご案内をするよう準備を進めているところです。
次に入学式を 4 月 19 日午前 10 時に開始する方向で準備を進めております。
新小学 1 年生の入学が想定されていないため、新中学 1 年生のお子さんに対しての入学式をやる予定でございます。
学校自体は市内の他の学校と同じく 4 月 10 日から開いていきます。
19 日に入学式を予定しているのは、新しく子どもが集まり、0 からということで、一定の期間慣れてもらったうえで、入学式に臨むということで今準備を進めているところです。
私からの説明は以上でございます。

山田市長　ありがとうございました。
ただいま、教育長より、事務手続きの状況等について、就学予定者について、そして、開校式、入学式の日程等について説明がございました。
それでは、もう皆様からご意見を頂戴したいと思います。佐藤敏義委員、いかがでしょうか。

佐藤委員　私の感想としましては八王子に視察へ行ってから、非常にスピーディに準備が整っているなという印象です。
ただ、私も教育委員や PTA 会長をやっている間に、何人か不登校の子どもたちを小学校中学校で見てきました。
原因は様々、一般的にいじめとか言われているケースが多いのですが、私の中ではマスコミやゲームとか使って一時的に、うつ状態になったようなお子さんもいました。
そういう子はちょっと休ませれば、１週間とか１０日ぐらいですぐ復帰できるのですが、原因がわからない子供さんも何名かいました。ただ、もう何十年と見てきていますが、小学校の時に、不登校になって、中学校もほとんど行けずに、あとは高校でも不登校になるなど、そういうお子さんを抱える家庭の大変さというのはさんざん見てきましたので本当に、スタートラインに立ったんだなと感じます。
これからどう運営していくか、大いに期待しています。

山田市長　不登校の子どもは千差万別で、その子によって理由があります。特効薬はないと思っています。多くの方からの支援を得て子どもたちを支えていきたいと考えています。白石きぼう学園は市外からも大変注目されています。この学校を作ることが目的ではありません。白石きぼう学園に通いたい、通わせたいと思ってもらえる学校にしてまいりたいと考えています。
鈴木委員さん、いかがでしょうか。

鈴木委員　不登校特例校を作ると聞いたとき、すばらしいという思いとどのくらい子どもが集まるかと不安な思いがありました。15 名もいるというのは頼もしいと思います。
新しい学校なので、先生方も赴任してきてすぐに開校式を迎えることから、教育委員会のフォローが大切だと思います。準備が大変とは思いますが先生方も暖かく迎

え入れていただきたいです。子どもや保護者は期待と不安をもって入学してくると思うので、先生の対応がとても重要になると考えます。

山田市長　開校式には、マスコミや宮城県教育長もお出でいただく予定ということで、先生方も不安が大きいと思います。教育長の方で何か準備していることがあればお聞かせください。

半沢教育長　人員配置で難航しているところがあり、粘り強く交渉していく所存です。
この学校に勤めたい、という意欲ある教職員を配置したいとお願いしているところです。
白石みらい教育基金には多額の寄付の申し出があります。社会全体で応援してもらっていること感謝しております。
また、赴任した教職員には早期に研修を行いたいと考えております。

山田市長　白石きぼう学園は県内外から注目されており、支援の声もいただいています。上廣倫理財団からは多大な力添えをいただいておりますし、ほかにも支援協力をいただいている企業が多くあります。このことは社会に発信していく必要があると思っています。社会全体が子どもたちを支えていく、という取り組みを行ってまいりたいと考えています。直接市が関われるのは中学校までですが、成人してから受け入れていただけるような企業や社会になるようお願いをしているところです。
小室委員、いかがでしょうか。

小室委員　６点申し上げます。
まず１点目、開校まで様々な困難があったと思います。きぼう学園のスタートは努力の成果です。一丸となってスタートしたことに御礼を申し上げたいです。
２点目、白石きぼう学園は子どもが対象ですが、不登校や引きこもりは中高生に限らない問題です。こうした取り組みはひいては大人や老人の引きこもりを改善することができると思っています。
３点目、県内外の子どもを大いに受け入れてほしいと思います。教育環境を求めて住居を決める時代です。魅力ある学校を作れば、引っ越ししても入りたいという人が増えていくと思います。
４点目、先生方の人事については、発達障害に理解のある人を入れていただくことを希望します。
５点目、教職員の研修はケアハウスで実績が出ているので、ぜひケアハウスと白石きぼう学園の先生と打合せ、協力を密にしていっていただきたい。
６点目、中学生は高校進学できるようにしていただきたい。受け入れ高校の整備を要望していっていただきたい。新設校でなくてもできると思います。

半沢教育長　ケアハウスとの連携は今まで以上にしてまいりたいと考えております。
中三の出口の問題について、高校であっても不登校特例校は作れます。
人事についてはおっしゃるとおりで、経験や知見を有する人材を配置いただくよう要望しております。

山田市長　義務教育の先が重要だと思っています。このことは県の伊東教育長にも要望しております。白石きぼう学園のプレオープン時には蔵王高校の先生が積極的に参加いただきました。高校は受験生が仙台圏に集中していて、県南や県北の高校は倍率が低い状況です。安心して受け入れてくれる学校、そして地元企業はとても大事だと思

っています。社会の一員として受け入れてくれる、ということが重要だと考えています。
大橋委員、いかがでしょうか。

大橋委員　保護者の立場でお話しさせていただくと、子どもが社会的に自立できるか、夢をイメージできるかが大事だと思っています。就学のみならず、就職についての展望もあると良いと思います。出口や方向性が見えると未来が開けるようになります。
ノウハウやスキル教育をしてほしいです。白石きぼう学園に転校しないまでも通所して交流でき、そこに企業も協力してもらえると可能性が広がると思います。
グレーゾーンの方への対応として交流の場があればとも思います。
白石きぼう学園を起点に魅力ある学校作りしてほしいと思います。

山田市長　社会的自立は将来の夢を子どもたちがイメージできることが重要だと思います。
体験など柔軟に対応できるカリキュラムになっています。
企業の皆さんにも支援いただき、地元企業には資金面だけでなく出前授業などで地元にある企業のよいところを発表していだきたいと思います。地元企業で採用してもらえるイメージも沸くと思うので、企業とも交流できればと思っています。

半沢教育長　学校作るのが目的ではない。社会的自立が最も重要です。ケアハウスや他校との連携について柔軟な対応を検討して参ります。

山田市長　ケアハウスの話も聞きます。多くの子がきていてその子にあった対応をしているということです。ぜひ、ケアハウス、きぼう学園、けやき教室でその子に合ったフィールド、情報が届くような環境整備が大事です。
また病気の子の対応の仕方が分かってきているので、そういった社会があればいいと思います。行政として対応できるようにアドバイスがほしいと思います。
それではテーマの二点目白石市学校教育・保育審議会について進捗状況をお聞かせください。

半沢教育長　進捗状況は、審議会が２ヶ月に１回様々な意見をいただき、ワーキンググループで案を検討しております。
幼児・保育部会ですが、現状の把握やニーズ予測を行うとともに、市としての幼児教育・保育ビジョン策定の必要性を検討しており、「おもしろいしの豊かな出会い」をキャッチフレーズに子ども・大人・地域の目指す姿を提示しています。自治体の役割やこれからの保育士に求められる役割、進むべき方向性を踏まえ、民間幼児教育保育施設と連携協働した豊かな出会いを仕掛ける機能を集約した施設の提案現状を把握、ニーズ現状の把握や大規模校・小規模校のメリット・デメリットの研究、先進事例の調査、特色ある取り組みの考察に加え、若者会議や保護者会議を開催し、若い世代や子どもが幼稚園保育園、小中学校にいる世代の声を聴く取り組みを実施していってはどうか、という内容で答申案をまとめる方向となっております。
学校教育部会では、従来の子どもが少なくなったので大きい学校に順次統合という形ではなく、大胆な再編が必要という整理になっており、この先１０年を目途に標準規模校１校、小規模校２校程度への再編や、予算の集中と地元学など特色ある取り組みを通した学校の魅力化、学校選択制といったことを検討しております。

佐藤委員　長いこと教育委員を務めさせていただいております。
幼保・学校とのつなぎの重要性、最終的にいいつなぎの調整して欲しいと思います。

学校再編については、今の出生率からすると１校にならざるを得ないのかというところですが、ぜひ子どもや地域にとって有用な再編になればいいと思います。

山田市長　つながりが重要ですね。

半沢教育長　出生率は、我国全体の課題となっています。

幼保からのつなぎについて、今年度から３年間、文部科学省の架け橋プロジェクトという事業を受託しています。公立だけでなく私立の園にも声をかけて中学校までの取組を進めたい。連携で中学校が入っているのは全国でも本市だけの取組です。

幼保はこれまでは待機児童の解消という量の問題が主眼でしたが、これからは質の問題の方向性に行くとみております。

山田市長　少子化は大きな課題です。生まれやすくなる環境、選ばれる環境両面が必要だと思います。

ＩＭＧ今村理事長が一月から刈田病院に赴任されて救急の受け入れが増えています。周産期医療の復活を求めています。

また、学力テストやＡＩドリル、英検等補助は継続していきます。

鈴木委員　広報の健診を受診した子どもたちを見て１０人、これから少なくなっていくのかと寂しい思いがします。

少子化に歯止めがかからない状況です。結婚している人は、子供を持ちたいと思っています。また、独身者も増えています。いいご縁があったらと思っているが、実際巡り会わない。昔のお世話役の人、なにかそういう人のお手伝いができないかと思います。

学校再編について　保護者や地域の人は、いつ学校がなくなるのかと不安になっています。情報が決まらないうちはだめでしょうが、ある程度情報をだしてはどうでしょうか。

再編の話は、地域の有識者やＰＴＡと、決まっていくと思いますが、これからの世代の声も、実際子どももどうなるのか、参加したいという子育ての方からの意見を頂戴する場があってもいいと思います。

山田市長　県では、ミヤマリ事業をやっています。婚活をＡＩがマッチングしてくれます。

市としても支援・情報発信していきたいと思います。白石市では商工会議所の女性部がマチ婚をやっています。

地域で学校がなくなると言うことについていかに情報発信していくか、行政が勝手に決めたと言われないよう、審議会の情報発信が大事ですね。

半沢教育長　審議会情報は、発信しているつもりだが十分ではないかもしれません。丁寧に説明していきたいと思います。

また、答申が出たなら丁寧かつスピード感をもって進めてまいります。

小室委員　私からは５点あります。

まず１点目は、幅広く市民の声を聞いて丁寧な議論を進めていることを今後も継続してほしいということ。

２点目は、学校統合について、新しい学校を作ることを強調してはどうか、選ばれる学校は一人一人を伸ばす姿勢が大事だと思います。魅力ある、入れたい学校だと思われるように。金で選ぶのではなく、教育の質で選ばれる学校にしてほしいです。

３点目、学校の規模については、答申をもらってから判断したいと思います。

４点目、規模については、１０年先２０年先を見通してほしい。
５点目、見通した期間の学校、予算について、修理の額が結構大きい。もったいない、無駄にならなければいいが、無駄な金を使わないようにしてほしいと思います。特にプールの維持管理は大変。これからは、たとえば全天候型で、市民にも利用してもらうなど考えていく必要があると思います。民間もありますし、１カ所で目が届くようにした方がよいと考えます。

山田市長　質で選ばれるようにしていきたいと思います。一人一人のばせる学校を目指していかなければならない。がんばります。先を見据えた１０年先、２０年先を描けるようにしていきます。プールについては後程触れたいと思います。

大橋委員　まちづくりデザインと学校作りデザインは併せて考えるべきと思います。一校の中で特色を持ったクラス毎に競い合ったりできるのではないでしょうか。そのようなことができれば他の地域からくる子どもも出てくるのでは。
子どもが少ないと部活の維持ができません。吹奏楽の部活ができるような環境を整えてもらえたらいいと思います。

山田市長　クラスごとに特色というのも確かにおもしろそうだと思います。白石は地域が温かいと思います。白石はそれがいいところだと思います。行事に学校も参加していて、ボランティアでも参加しています。またスキー場があるというのも大きな特色です。スキー教室を教育課程に入れてもらえればすごくウインタースポーツがうまくなるでしょう。一年生から健康に成長できると思います。
特色ある学校やインフラを整備してまいります。

半沢教育長　「学校は地域に浮かぶ船」と言われます。市民のシビックプライドの醸成を図っていくことが大切であると思います。
登別市に行ったとき、白石から移住したのは知っていたが、その後どのように開拓していったかは知らなかったということがありました。北海道で祖先がどのように開拓していったのか、次回の社会科副読本改訂時に反映させていきたいと考えております。本市が持つ財産のひとつであるスキー場に一部の学校が行くようになりました。検討していきたいと思います。
義務教育の中でクラスごとという多様性を出すのは難しいのではないかというのが正直なところです。ただ、日本の教育システムが制度疲労を起こしてきているところはあると考えております。研究課題だと認識しております。

山田市長　先ほど小室委員から挙げられたプールの話題を提起します。プールには昔、夏毎日入っていましたが、今は暑すぎても入れないという状況にあります。ではどのくらい入っているかというと、年３～５回入っているということです。昔とは全然違います。全部の学校にプール、各校に１つのプールと、こだわる必要はないのではないか、全天候型や民間を使って等様々な話がありました。
市としてどのようにしていくか、まちづくり推進課とも関わっていく話です。重要な機会ですので、ご意見をいただければと思います。

半沢教育長　プールに関しては、市内の学校プールがどのような状況か、２月１３日の教育委員会定例会でもお話しする予定でおります。

鈴木委員　各学校にプールは必要ないと思います。使用しなくても水があれば消毒剤を入れなければなりません。少子化でプール清掃が先生の大変な負担になっています。大鷹

沢小学校は民生委員がボランティアで清掃を手伝っています。そのくらい手間をかけてプールにどの程度入れるのかというと、先ほどの市長のお話にもありましたとおり、あまり入れない状況です。中心部に市のプールを作って子どもたちを入れたらいいと思います。

大橋委員　夏休みにプールを監視できる人を探すのが大変と聞きました。監視できる先生もいないです。中心部に１カ所ならいいかと思います。

佐藤委員　学校プールと市民プールでは規格の違いがありますので、クリアすべき課題はありますが、学校再編に合わせてという考えもあります。

少子化の問題が大きいですし、その間、民間の力を借りてしのいでいくということもあってよいと思います。

山田市長　その他皆様から、なにかございますか。それでは特にないようでございますので、本日の会議は終了させていただきまして、議長の任を解かせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

佐藤課長　山田市長ありがとうございました。それでは、閉会にあたりまして、半沢教育長からご挨拶を申し上げます。

半沢教育長　ただ今は、市長並びに教育委員の皆様方には熱心にご協議いただきましてありがとうございました。

本日は、長時間市長、委員の皆様、大変熱心なご協議をいただいたことに改めて感謝を申し上げまして閉会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。